

『為永春水』

（新增補西國奇談 春色恵の花）

江戸時代後期の人情本作者。本名、鷺鷥（ささき・佐々木）貞高。別号、狂訓亭、金竜山人。初め小書肆を経営、青林堂越前屋長次郎と称した。また講釈師為永正輔と名のって高座にのぼった。戯作にも志し、式亭三馬に入門、三鷺あるいは2代目振鷺亭主人と称し、滑稽本、読本を書いた。文政4（1821）年処女作『明烏後正夢（あけがらすのちのまさゆめ）』初編を出版。同 12 年から為永春水と改号。『春色梅児誉美（しゅんしょくうめごよみ）』が大いに当り、みずからの中本を人情本と称し、「東都人情本の元祖」と自称。天保の人情本界第一人者となり、多数の門人を集めたが、天保改革による取締りで天保 13 年手鎖刑に処せられた。ほかに『春色辰巳園（たつみのその）』、『花名所懷中暦』、『風月花情春告鳥』などの作品がある。

展示されている作品は、左側が『西國奇談（さいごくきだん）』、右側が同じ登場人物の『春色もの』の一つである『春色恵の花（しゅんしょくうめぐみのはな）』となっている。

〔参考文献〕

“為永春水”，日本大百科全書（ニッポニカ），Japanknowledge.
<http://japanknowledge.com>,（参照 2014-11-13）